

評価結果公表票

作成日 平成21年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	270102262
法人名	医療法人 蛭慈会
事業所名	グループホーム 蛭
所在地	青森市大字浅虫字蛭谷323-3 (電話)017-752-3700
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算	14.64人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 12,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4)利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.6 歳	最低 78 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	石木医院 ミナトヤ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「青森市浅虫」という、海・山・温泉といった自然豊かな環境を生かしているほか、建物も木材をふんだんに使い、利用者にとって温もりのある、気持ちの良いグループホームである。  
また、浅虫地区は、現在「生き生き浅虫」というキャッチフレーズで、活気のある住みやすい地域づくりに取り組んでおり、グループホームも地域の資源としてその一環を担っており、職員は「地域の中で自分らしく生き生き」という事業所独自の理念を作成し、日々のケアサービスに活かしている。  
同法人に病院があり、医療と福祉の連携があるので、利用者は安心して生活ができる環境にある。また、ホームには温泉が引かれ、毎日入浴ができ、心身のストレスを癒している。職員は、利用者が安全で楽しい時間が過せるように配慮し、利用者の意向を大事にして支援する姿勢があり、日々利用者本位のケアが実践されている。  
居室は利用者一人ひとりが過ごしやすいように、それまでの自分の持ち物を持参している。また、好みを取り入れ、職員と一緒に個々に合った居室作りを行っている。

【特に改善が求められる点】

虐待を発見した時の報告の流れに関する取り決めがないので、整備することに期待したい。  
やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、記録や同意書を残すように、書式等を整備してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者・管理者は自己評価や外部評価について理解しており、結果について職員や運営推進会議にも報告し、全体で共有し、改善策を策定して取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者のみならず、職員も一人ひとりが自己評価を行い、その結果をまとめて、事業所の自己評価としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されており、地域住民や地域包括支援センターの職員や利用者、家族等が出席し、行事やサービス内容、自己評価・外部評価結果を報告している。また、改善策への取り組み状況の報告や改善に向けた話し合いを積極的に行っている。ホームでの様子をより知ってもらうために食事の写真を提供するなど、議題等の提供にも工夫がされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族等が意見を出しやすい雰囲気作りを行っており、毎月発送している手紙で、ホームでの生活状況や健康、金銭出納の状況、職員の異動等を報告しているほか、返信欄も設けている。</p> <p>ホーム内には意見箱を設置している。また、重要事項説明書に、内・外部苦情受付窓口を明示し、ホームに掲示しており、出された意見等は運営推進会議等で話し合われ、日々のサービスに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区との連携は強く、ねぶた祭りの休憩所として駐車場を提供したり、屋台を出し、利用者も一緒にねぶたを見るなどの交流をしている。</p> <p>また、地域住民からの差し入れがあったり、地域の人遊びに来るなどの交流がある。</p> <p>見学や認知症に関する相談も随時受けており、地域の福祉資源としての役割も果たしている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「地域の中で自分らしく生き生き」という地域密着型を意識した理念を掲げ、理念に基づいた日常のサービス提供が行われている。朝のミーティングでの唱和や会議等での話し合いなど、職員が話し合っただけで決めた理念を大切に、共有を図る取り組みを行っている。</p> <p>事業所では職員の個々の力量や経験に応じて、外部の研修へ派遣するなど職員を段階に応じて育成するための年間研修計画を立て、研修を受ける機会を確保し、働きながら資格取得できるように職員をバックアップしている。研修後は報告書を作成し、全職員が回覧するほか、勉強会等を行い知識の共有を図っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>職員は入所にあたって、環境の変化による混乱が起こらないように、見学や体験入居を行うほか、利用者や家族双方の意向に沿い、徐々に馴染みながらサービス開始となるよう調整している。</p> <p>また、本人の意向を大事にし、生活暦を把握しながら、家族とともに利用者を支える支援をしている。職員は利用者に対して尊敬の念を持ち、利用者・家族・職員・事業所がより良い関係を築けるように取り組んでいる。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>アセスメントを行い、適切なケアプランの作成を心がけている。定期的にケース会議を持ち、介護計画を定期的に見直している。また変化に応じて、計画の変更やモニタリングにも積極的に取り組んでいる。</p> <p>利用者のこれまでの受療状況を把握している。また、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。経営母体が病院のため、週一回の回診があるほか、病院と連携し24時間の協力体制が確保されている。受診結果等はその都度家族に報告し、共有が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>日常生活における本人の意向を大事にし、プライバシーに配慮しながら、利用者それぞれに応じた支援をしている。食事や入浴なども本人の嗜好を大事にし、安心して安定した生活が送れるように支援している。</p> <p>また、ホール等の共有部分は清潔で、気持ちよく過せるように配慮されている。居間にはソファーや畳のスペースがあり、ゆっくりくつろげる空間となっているほか、台所や食堂なども家庭的な雰囲気となっている。職員が立てる物音や、テレビの音量、日射し等は適当で、また、季節が感じられる飾り付けをするなどの工夫を行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の結果を基に、職員全員で理念について話し合い、地域密着型サービスを意識し、「地域の中で自分らしく生き生きと」という事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、理念を唱和し、ミーティング等でも管理者が理念について話をするなど、職員間で理念を共有する取り組みを行っており、日常のケアに理念を活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の住民から野菜の提供があったり、利用者の地区の知り合いが遊びに来るなど、ホームは地域に開かれている。小学校や保育所との交流を行っているほか、町内会に加入し、ねぶた祭りの時は、ホームや駐車場を地域に提供したり、屋台を出店するなど、地域との交流を積極的に図っている。また、ホームの見学や認知症に関する相談、ボランティアの受け入れを行っているほか、系列のグループホームが新規で開設された際は、職員の実習等も受け入れている。外部の人を受け入れる際は、利用者や家族の了解を得るとともに、プライバシー等に十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、前回の評価結果を基に、全職員で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。また、自己評価は全職員が一人ひとり記入し、取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、行事やサービス内容、自己評価・外部評価結果を報告している。また、改善策への取り組み状況の報告や改善に向けた話し合いを積極的に行っている。出された意見等は今後の取り組みに繋げ、サービスの向上に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議時の外にも相談する機会が多く、運営や現場の実情等を積極的に伝え、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決について話し合い、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部で開催された研修会へ職員を派遣し、地域福祉権利擁護事業等について学習する機会を設けている。また、内部研修で研修報告を行い、職員の理解を深めている。利用が必要な方へは管理者をはじめ職員全員が説明できる体制を整えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの理念に掲げるとともに、研修会や日常の支援において虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。管理者や職員は、日常的に職員間で声を掛け合うなどの注意を行っているほか、虐待発生時の対応の手順を決めているが、報告の流れに関する取り決めを作成するには至っていない。	○	虐待を発見した時の報告の流れに関する取り決めがないので、整備することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約に際しては十分な説明を行い、利用者や家族等の不安、疑問点を聞き、その上で理解・納得をが得られるように配慮して取り組んでいる。また、契約改訂時も十分な説明を行い同意を得ている。退居の際は情報提供を行う等の支援をしている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの生活状況や健康、金銭出納の状況、職員の異動等について、面会時に報告しているほか、毎月手紙や園だよりを送付し、報告をしている。また、随時電話にて報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見を出しやすい雰囲気作りを行っており、毎月発送している手紙には、返信欄も設けている。また、ホーム内には意見箱を設置している。重要事項説明書に、内・外部苦情解決窓口を明示し、ホームに掲示しており、苦情や要望に応じている。出された意見等は運営推進会議等で話し合わせ、日々のサービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、異動による利用者への影響を理解しており、異動や配置換えをしていない。職員の新規採用時も、利用者への影響を考え、利用者・家族に説明し、混乱が無いように配慮している。また、利用者については信頼関係を失わないように、引継ぎに1ヶ月程度かけており、申し送りを徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所では職員の個々の力量や経験に応じて、外部の研修へ派遣するなど職員を段階に応じて育成するための年間研修計画を立て、研修を受ける機会を確保し、働きながら資格取得できるように職員をバックアップしている。研修後は報告書を作成し、全職員が回覧するほか、勉強会等を行い知識の共有を図っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが中心になり、圏内のグループホームの職員が集まって情報交換会や研修の機会を持っている。当グループホームでも参加し、職員育成と同業者との交流・連携に役立っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は入所にあたって、環境の変化による混乱が起こらないように、見学や体験入居を行うほか、利用者や家族双方の意向に沿い、徐々に馴染みながらサービス開始となるよう調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活暦に配慮し、仕事や趣味で培った技術を教わったり、畑作りや家事、趣味等の活動を通して、日常生活の思いを共有し、利用者と共に支えあう関係を構築しながら共同で生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のアセスメントを十分行い、コミュニケーションを取って思いや意向を把握している。また、十分に把握できない場合は、全職員で利用者の立場になり意向の把握に努めている。必要に応じて家族等から情報収集を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向を汲み取り、家族の意見や思いを反映させている。また、ケース会議等で目標設定するなど、職員全体で検討し、介護計画の作成に活かしており、個別具体的なものを作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しはもちろん、本人に変化が生じた時や通院等に対応が変わったときなどはその都度介護計画の見直しをしている。見直しを行う際は、利用者や家族の意見や気づきを基に、再アセスメントを行っているほか、日々利用者の状態を観察し、毎月のカンファレンスで確認を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて、なじみの美容院へ出掛けたり、外出の希望を実現するなど、柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のこれまでの受療状況を把握している。また、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。経営母体が病院のため、週一回の回診があるほか、病院とは連携し、24時間の協力体制が確保されている。受診結果等はその都度家族に報告し、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期について対応しており、看取りの指針を策定している。入所の早い段階から本人や家族等、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する声かけや対応はプライバシーや羞恥心に十分配慮して行っている。また随時会議等でも話し合っている。個人情報保護法についての勉強会を開き、職員は概ね理解している。個人情報についての記録などは、利用者や訪問者の目の付かない場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の意向を大切に、食事や入浴の時間を含めて、ゆっくりしたペースで生活できるように配慮している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況や好みに合わせた食事を提供しており、利用者は調理の準備や後片付け等と一緒にしている。職員はさりげなく食事のサポートを行いながら、同じテーブルと一緒に食事し、楽しい雰囲気ですることができるよう努めている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣等を把握している。ホームは天然温泉で、毎日の入浴も可能であり、時間帯や入浴方法等利用者の希望を取り入れている。職員は利用者の羞恥心や負担感を理解しており、同性介助を行うなど配慮している。入浴を拒否する方には、無理強いせず、声かけ等に工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩やトランプ、習字・体操・歌・塗り絵など、個別の趣味等に取り組んでいる。食事の準備や片付けなど、日常の家事についても、できる範囲で手伝ってもらうなど、一人ひとりに合った役割を持つ生活を支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩を行い、日常的に外出するように支援している。美容院や友人宅に出掛けるなど、利用者の希望や習慣を取り入れている。また、歩行に不安がある利用者については車椅子を使用するなど、その日の状態や気分に合わせて支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、内容や弊害について全職員が理解している。また、身体拘束のないケアに取り組んでおり、ミーティングや申し送り時に確認している。やむを得ず身体拘束を行う場合の対応等について事業所内で話し合いを持ち、一定のマニュアルは整備されているが、記録を残す体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、記録や同意書を残すように、書式等を整備してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは玄関等を施錠しておらず、日中職員が手薄になる時間帯には玄関の3枚扉を工夫し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は常時見守りをし、外出傾向を察知した場合は付き添っている。やむを得ず施錠する場合は、家族への説明を行い、同意を得ているほか、無断外出時に備え、タクシー会社、商店、派出所から協力が得られる体制となっている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時の通報マニュアルの整備や避難訓練を実施しており、地域住民を巻き込んだ避難訓練も行っている。災害時など非常時に備えて、食料や飲料水、ポータブルトイレなどの備えを整えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の協力を得て、栄養バランスに配慮した献立となっている。また、水分補給も十分に行い脱水防止に努めているほか、毎食の食事量や水分量を記録している。同法人病院の管理栄養士より、栄養摂取状況等に付いて指導や助言を得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対応したマニュアルを作成しており、必要に応じて見直しを行っている。また、マニュアルに基づいた勉強会等を行っている。保健所等からの最新情報を収集し、職員に回覧しているほか、うがいや手洗い、マスクの励行などに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内のホールなど、共有部分は清潔で、気持ちよく過せるように配慮されている。居間にはソファや畳のスペースは、ゆっくりくつろげる空間となっており、台所や食堂なども家庭的な雰囲気となっている。職員が立てる物音や、テレビの音量、日射し等は適当で、また、季節が感じられる飾り付けをするなどの工夫を行っている。</p>		
35	80	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者一人ひとりが過しやすいように、それまでの自分の持ち物を持参している。また、好みを取り入れ、職員と一緒に個々に合った居室作りを行っている。</p>		

※  は、重点項目。